

## 顧客ごとにソフト改良

### IoT関連の開発視野

#### S H F

S H F（京都府福知山市、岡田正人社長）は

2017年から、2×4工法用構造設計CAD「さくっと2×4」を販売している。ウイング（東京都、倉田俊行社長）、コンピュータシステム研究所（同、長尾良幸社長）と共同開発したもので、意匠CAD、プレゼンCAD、構造計算ソフト「KIT ZUKURI2×4」との連携が可能だ。同商品の特徴は、ばらばらだった各工程と



「さくっと2×4」は誰でも使いやすい設計ソフトとして別対応で利便性向上を図る。同社は、この少しずつ異なる要望を聞き出して改良視野に入れている。

のデータ連携が可能になったことだ。部分づレカットなど2×4部材の複雑な納入体制にも対応するほか、加工形態別の積算や、壁と開口位置を設定すればスタッド・床ネタなどの自動配置ができるなど、方法が多岐にわたり、や個会社ごとに管理方法も違うく、社員も受け入れるため、求めらる機能が各社で少しずつ異なる。今後は、IoTやAIなどを生かした新しい通信技術社会に貢献

ど、工場と現場の両面を加えることで、顧客での生産性向上に貢献の満足度を高めている。今後は、部材別による、それと同時に開発歩留まりの良い裁断方法の方向性を決めるもの法を割り出すことで部材削減ができるよう機材削減を図っていく。エアとして普及を図る。その後のサポート根底にあるのは、顧客として親身に寄り添って一人ひとりに合わせた個別に改良を加える。岡田社長は「ホットウエア」と呼ぶ。つながりが続く点で人の温かさが伝わるのではないか」（岡田社長）。

ソフトは通常、大きな機能追加や致命的な弱点がなければ更に新しいなど、開発企業をつなぐファイナルサークルに対応した。その

昨年、働き方改革に対応するため社内外

を構築し、テレワーク

ため、新型コロナウイルスに伴うテレワーク

の推進は大きな混乱な

社員も受け入れる

ことができた。また、

新人社員の面接もZoomで実施した。

今後は、IoTやAI

を

を

を